

第5章 要注意種

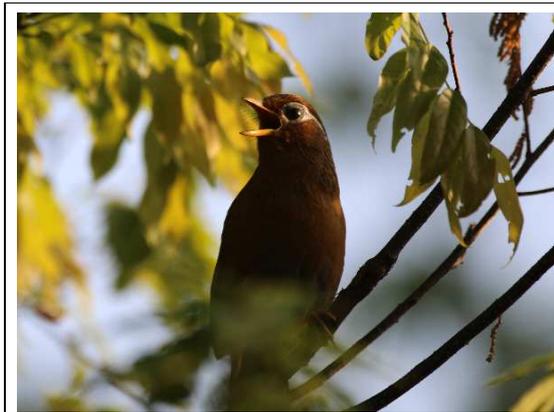
私たちの身のまわりには、本来その地域に生育や生息していなかった生物が数多くみられます。これらは「外来種」や「外来生物」と呼ばれ、人の手によってペットや園芸などの目的で外国から持ち込んだ動物や植物が野生化してその地域に定着し、繁殖している種のことを言います。

この外来種の中には、繁殖力や生命力が強く、本来その地域に生育や生息していた種（在来種）の生存を脅かしたり、時には絶滅につながるなど、生態系に悪影響を及ぼす種もいます。また、在来種であっても、なんらかの環境の変化によって数が増えたり、生育・生息域を広げることによって、地域固有の生物や環境に影響を与える種もいます。外来種やほかの生物に対して影響を及ぼす種に対しては、私たちも身近な問題として受け止める必要があります。

2011年に発行した「千曲市版レッドデータブック」では、当時に確認されていた主な外来種として18種（植物：アレチウリ・オオカワヂシャ・オオキンケイギク・オオブタクサ・セイタカアワダチソウ、動物：ハクビシン・アライグマ・アメリカミンク・カワウ・ウシガエル・ミシシippアカミミガメ・ブタクサハムシ・ギンメッキゴミグモ・マダラヒメグモ・タイワンシジミ・オオクチバス・コクチバス・ブルーギル）を紹介していますが、2011年以降に実施したモニタリングや、市が実施している環境調査などで確認された新たな外来種を以下に示します。

千曲市で新たに確認された外来種（要注意種）

	<p>オオハンゴンソウ（キク科） 植物</p> <p style="text-align: right;"><i>Rudbeckia laciniata</i></p> <p>北アメリカ原産で、明治中期に観賞用に日本へ導入され、1955年に野生化が確認されました。現在は日本全国に分布を広げ、道端や荒地、畑、湿原、河川などの肥沃で湿った場所に生育しています。自然豊かな環境にも定着して大群落を形成し、在来種との競争や駆逐が懸念されています。千曲市でも2020年に千曲川の河川敷などで確認しています。</p>
	<p>マルバフジバカマ（キク科） 植物</p> <p style="text-align: right;"><i>Ageratina altissima</i></p> <p>北アメリカ原産で、日本には1896年に確認されたのが最初と言われ、現在では北海道～近畿地方にかけて分布しています。多年草で茎の高さは150cmになり、牧草地や荒地などのほか、外来植物があまり生育しない森林内でも繁茂します。在来植物と競合するおそれがあり、千曲市でも2008年に生萱地区の山地の森林内で群落を形成していました。</p>
	<p>メリケンカルカヤ（イネ科） 植物</p> <p style="text-align: right;"><i>Andropogon virginicus</i></p> <p>北アメリカ原産で、日本には1940年頃に愛知県で確認されたのが最初と言われ、現在では本州の関東以西～九州に分布しています。多年草で茎の高さは50～100cmで、畑や水田の畦、道端、荒地、市街地の芝地などに生育して繁殖し、在来植物と競合するおそれがあります。千曲市でも高速道路のインターチェンジ出口の芝地などで確認されています。</p>



ガビチョウ (チメドリ科)

鳥類

Garrulax canorus

中国、台湾、ラオス、ベトナム原産で、日本には江戸時代に飼い鳥として輸入されました。現在では逸出したと思われる個体が関東地方や九州地方、福島県、長野県などに分布を広げています。藪を好んで生息し、下層植生が刈り払われた森林などには生息しません。鳴き声はクロツグミに似て美声ですが、より大きな声で鳴きます。千曲市でも2021年に鳴き声を確認しています。



ソウシチョウ (チメドリ科)

鳥類

Leiothrix lutea

ヒマラヤ西部からミャンマー、インド、ベトナム、中国にかけての地域が原産で、日本では江戸時代から飼育の記録が残っています。現在では逸出や放鳥したと思われる個体が九州、関西、関東、長野県、静岡県や愛知県に分布を広げています。下層植生が発達した森林に生息し、藪を好むウグイスとの競合が懸念されています。千曲市でも2012年に森将軍塚古墳で確認されています。



カラドジョウ (ドジョウ科)

魚類

Misgurnus dabryanus

中国、台湾、朝鮮半島原産で、日本では1960年代に初めて確認されています。食用や観賞用肉食魚の餌として利用されたものが、逸出や放棄により国内に分布を広げ、現在では北海道と沖縄県を除く本州、四国、九州の各地で確認されています。在来のだジョウとの競合や交雑が懸念されています。千曲市でも2010年に千曲川で確認されています。



ホソオチョウ (アゲハチョウ科)

昆虫類

Sericinus montela

ロシア東部、中国、朝鮮半島原産で、1978年に東京で初めて確認され、関東甲信、関西、九州などに分布しています。飛翔能力が弱く放蝶されたものと考えられます。幼虫の食草がウマノズクサであるため、在来のジャコウアゲハとの競合や駆逐が懸念されています。千曲市では2013年と2014年に千曲川の堤防で雌雄の成虫、幼虫、卵が確認されましたが、駆除後の発生は確認されません。



カワリヌマエビ属 (ヌマエビ科)

甲殻類

Neocaridina

ロシア、朝鮮半島、台湾、中国に分布し、日本にも亜種ミナミヌマエビが分布します。なお、2000年頃から国内の自然分布域外でカワリヌマエビ属が多量に見つかるようになり、その一部に中国固有のヒルミミズが付着していたため、外来のカワリヌマエビ属が分布を広げている可能性が指摘されています。千曲市でも千曲川や市内を流れる用水路で多量に生息しています。



フロリダマミズヨコエビ (マミズヨコエビ科)

Crangonyx floridanus 甲殻類

アメリカ南東部原産で、日本では1989年に利根川水系で初めて確認されました。現在では北海道、本州、四国、九州に分布しています。体長は4~8mmで、湧水のある河川の上流域~下流域、用水路などに生息し、水質が汚濁して高水温な場所にも生息します。在来のヨコエビ類と競合する可能性があり、ワサビに対する農業被害が報告されています。市内でも河川や用水路に生息します。

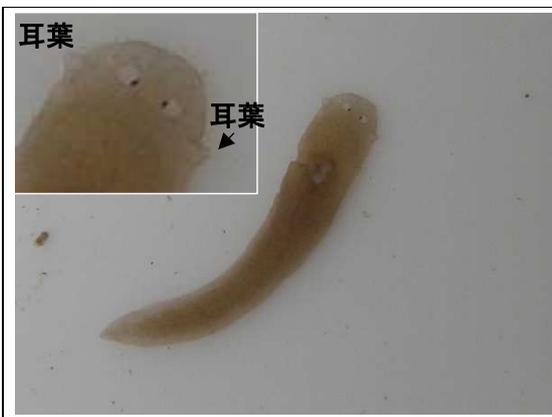


コモチカワツボ (ミズツボ科)

貝類

Potamopyrgus antipodarum

ニュージーランド原産で、日本では1990年に三重県で初めて確認されました。現在では北海道、本州、四国、九州に分布しています。靴底や網、水鳥の脚に付着して分布を広げたとされています。成貝でも殻高4~6mmの小さな巻き貝で、カワニナの幼貝に似ていますが、殻口の形状(本種は長円形、カワニナはひし形)で区別できます。市内の一部の用水路でおびたく繁殖しています。



アメリカツノウズムシ (サンカクアタマウズムシ科)

Girardia dorotocephala プラナリア類

北アメリカ原産で、日本でも河川や湖沼、水田に生息するほか、魚類などの観賞用の水槽でもみることがあります。頭部に耳に似た突起(耳葉)があります。在来のナミウズムシは冷水を好みますが、本種は広温性で平地の河川などでも生息します。千曲市では2013年頃から市内の用水路で、同属のアメリカナミウズムシ(北アメリカ原産)とともに確認されています。